

Part6

事業評価

# Part6 事業評価

水泳教室の実施運営にあたり、科学的、客観的な評価（直接的な評価）を取り込んでいくことが、事業のレベルアップにつながります。水泳教室への参加前、参加後の変化を判定することで事業の内容を見直し、改善していくことができます。

## ●事業評価の調査方法

- ◆医師の意見書による判定
- ◆保護者及び本人（未就学児、就学児）によるアンケート調査（参加前後・当日含む）
- ◆水泳教室時における判定

## ●評価項目

### 〔直接的な評価〕

#### ■治療（薬の使用量）点数による判定

「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2002」に示された治療点数（参考資料編75ページ参照）を用い、実施前後1か月の治療点数で評価します。

#### ■発作点数（発作の程度や頻度）による判定

「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2002」6ページ表3発作程度の判定基準（参考資料編76ページ参照）より、発作点数は1日を8時間ごとに3区分し、その区分ごとに観察された最も強い発作状況を、小発作1点、中発作2点、大発作3点とカウントし、実施前後1か月の合計点数で評価します。

#### ■ピークフロー値による判定

「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2002」137、145、146ページ 予測値一覧表（参考資料編64、65ページ参照）より、実施前後1か月の毎日及び訓練前後のピークフロー値の変化で評価します。

#### ■腹式呼吸の習得度による判定

水泳教室にて、腹式呼吸自体を練習することで、習得度を高めます。判定としては、次のような習得度を参考に、水泳教室における指導員により判定します。

### 腹式呼吸法評価基準

習得度	呼吸の様子
1	呼吸時の胸とお腹の動きが逆
2	お腹の上下運動が不十分
3	お腹の上下は十分だが、胸も同時に動く
4	上手にできているが、呼吸を長く続けると胸が動いている
5	呼吸を長く続けても胸が動かず上手にできる

資料：「ぜん息キャンプの有効性評価の研究」平野幸子（東京女子医科大学）より

#### ■エゴグラム

エゴグラムのデータから変化を判定します。（参考資料編78～83ページ参照）

### 〔間接的な評価〕

水泳教室参加の一環として、参加のぜん息児と保護者に対してアンケートに回答していただきます。できれば水泳教室の初日、最終日など、参加している時間に記入してもらって回答例を増やすことができます。

また、選択項目を多くして、記述部分は少なくする、また参加者の年齢に合わせた質問事項（低年齢児には、擬音を使った表現にするなど）にするなどの工夫が必要です。

- 自覚症状
- 運動誘発ぜん息の有無
- 意識の変化
- 心理的な変化
- その他（水泳教室運営への意見など）

\*具体的なアンケートの項目などは……（参考資料編72、73ページ参照）

## ●ぜん息児の泳力による判定

泳力による次のような判定法も調査・研究中です。

- ◎クロール泳間欠式多段階漸増大運動負荷試験による判定  
水泳教室時に測定して、変化を調べて効果を判定します。
- ◎1分法ベスト記録から求めるLt-Speedによる判定  
水泳教室時に測定して、変化を調べて効果を判定します。

## 水泳教室の経過に沿った 「評価判定のための調査及びアンケートの実施時期」

### 実施前1か月



- 説明会にて「ぜん息日誌」を配布
  - ピークフロー値による判定
  - 発作点数(発作の程度、頻度)による判定
- 医師の意見書
  - 治療点数による判定
- 参加者及び保護者への事前アンケート調査
  - 運動誘発ぜん息発作の有無 など

### 水泳教室実施中



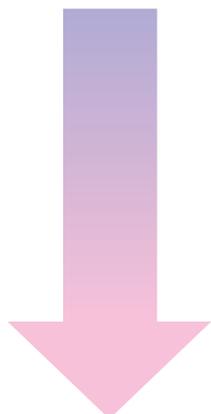
- ぜん息日誌の提出
  - ピークフロー値による判定
  - 発作点数(発作の程度、頻度)による判定
- 水泳教室前後のピークフロー値の計測
  - ピークフロー値の計測による判定

### 水泳教室最終日



- 腹式呼吸の習得度の有無
  - 腹式呼吸の習得度による判定
- AN-エゴグラムによる調査
  - AN-エゴグラムによる判定

### 水泳教室終了後1か月



- 「ぜん息日誌」の確認
  - ピークフロー値による判定
  - 発作点数(発作の程度、頻度)による判定
- 参加者及び保護者への事後アンケート調査
  - 治療点数による判定
  - 運動誘発ぜん息発作の有無
  - 水泳訓練の継続
  - 指導内容の履行度 など